モノづくり現場（第二部）
生産革新・脱炭素社会への挑戦　6

予熱不要、エネ効率利用

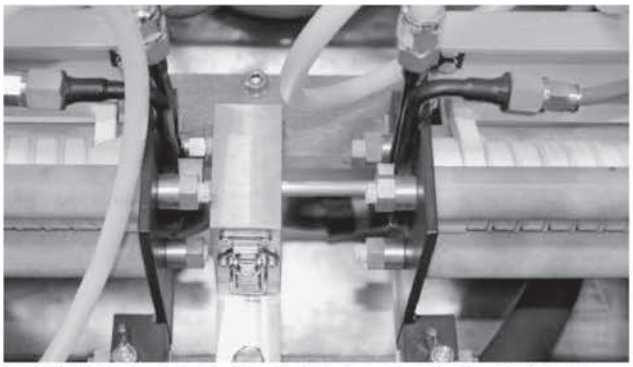
ＩＨ方式で熱処理

インダクトサームグループジャパン

北米や中国、豪州など世界26カ国で電磁誘導を用いた溶解、加熱、溶接装置を手がけるインダクトサームグループ。その日本法人がインダクトサームグループジャパン（神戸市西区、ショーン・レマーブル社長、078・974・2552）だ。

同グループは1953年に米国ニュージャージー州で創業した。82年に日本へ進出し、神戸に本社と一部の試作品製造などを手がける工場を持つ。日本のユーザーの動向やニーズを満たす誘導装置の製品開発に力を注ぐ。

94年、豪州で開発した空調冷媒用の銅配管を熱処理する光輝焼鈍（どん）装置「アニーラ」。加熱方法は電磁誘導加熱（ＩＨ）方式で、コイル状に巻かれた銅管の払い出し装置から巻き取り装置までをフルラインでサービス提供している。



光輝焼鈍装置「アニーラ」の加熱部分

ＩＨは高周波電流が流れるコイルに加熱対象物を近づけ、発生する誘導電流によって対象物を自ら発熱させるのが特徴だ。焼鈍を行う時のみ通電し、素早く加熱できる。常に火を入れて炉内の温度を一定にする必要があるとされる炉内の製品をローラーに乗せて搬送するタイプの焼成炉などと比べ、「予熱時間が不要な点などからエネルギーの効率利用に寄与する」と山口基彦営業部長は強調する。

同装置の強みは一酸化炭素やばい煙などの排出がなく、工業炉内で熱処理時に使用する雰囲気ガスの流量が少ないことだ。ベルを模した形のカバーをかぶせ、カバー内部を不活性ガスなどの雰囲気ガスで熱処理を行う炉と比べ、環境負荷の低減につながるという。

また銅管などの材料を巻き付けるスプール（巻き枠）巻き取りを分速200㍍程度の早さで行えるほか、万一巻き取り時に管が途中で途切れた場合でも、続きから巻き取りを再開できるという。

レマーブル社長は「途切れた箇所から再開できる機能は、おそらく同業他社では設けていないユニークなもの」と力を込める。

「日本で展開する主力製品の誘導溶解炉、各種加熱装置、電縫管溶接機だけでなく、海外で展開する誘導加熱製品群を国内で拡販し、アフターサービス強化に注力する」（レマーブル社長）と意気込む。今後の展開にさらなる期待がかかる。

（神戸・福原潤）

（月・木曜日に掲載）

【事業所概要】▽所在地＝神戸市西区南別府1の3の10、078・974・2552▽資本金＝5000万円▽従業員＝27人▽事業内容＝誘導溶解装置・誘導加熱装置・空調冷媒用銅管光輝焼鈍装置・非鉄金属用横型ビレットヒーターなどの製造販売とメンテナンス

無断転載・複写禁止　㈱日刊工業新聞社